

長畝ふるさと通信

【2012年6月号】

■ 6月の農作業はとにかく「暑い!」「熱い!」

- ① 補植 → 田植えをした田んぼで苗の植わっていないところに、苗を植えていきます。田んぼの水はお日さまの陽をあびて温かく、カエルやオタマジャクシ、ヤゴなどがゆったりと泳いでいる姿が目につきます。幸せそうです



- ② 草刈り → 田植えが終わると、一気に畦草刈りが始まります。管理する田んぼが多いので、全ての田んぼの草刈りを終わるのに1ヶ月半くらいかかります。終わったと思ったら最初に刈った草がまた伸びて・・・こうして年中草刈りをしています。



- ③ 溝切り → 中干し(6月中旬頃から稲の成育調整のため、一旦田んぼの水を抜くこと)にはいると、田んぼに溝をつけます。排水を容易にするためと、乾いた田んぼに迅速に水を回すための技術です。いずれの作業も結構体をいじめる重労働で、顔や腕も日に焼けて真っ黒です。



■ 無農薬田んぼの格闘 みなさんのおかげです！

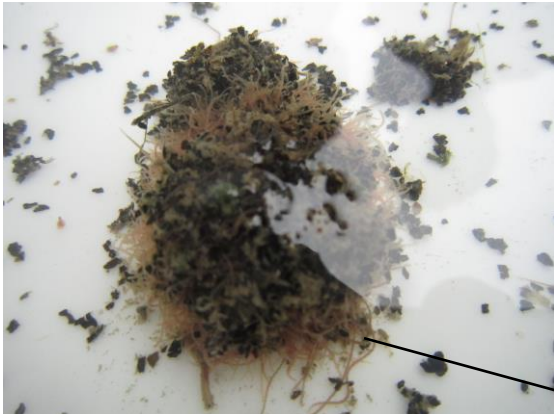
無農薬田んぼは雑草との闘いです。田植え後は気温の上昇と同時に、雑草たちも元気一杯生えてきます。苗が勝か、雑草が勝かの勝負は6月の闘いで決まります！

<6/2-3 めだかの学校 草取りツアー>

今年で6年目を迎えたNPO法人「めだかの学校」の草取りツアー。東京や新潟から約30名が今年もやってきてくれました。田植えをして3週目の田んぼは雑草が少しづつ見え始めた頃。泥んこになりながらも楽しく雑草退治をしてくれました。わざわざ雑草取りをしに来ていただいて、おまけにお米も買ってもらって・・・感謝・感激です。



<6/10 全島一斉生きもの調査の日>



トキ認証米の必須条件の「生きもの調査」を行いました。7月に佐渡で開催される「生物多様性農業国際会議」での生きもの調査実施圃場に選ばれたので、その予行演習をかねて本格的に実施しました。左の写真は土のかたまりに「イトミミズ」が活発に活動している様子です。10年以上無農薬栽培を継続している「証」です。
→ 赤い糸状のものがイトミミズです。

<6/11-16 東京農大 農業実習受け入れ>

東農大の実習を受け入れました。メニューは毎日、無農薬田んぼの雑草取りです。田んぼの中を歩くこともままならない学生諸君が文句ひとつ言わずに黙々と雑草と格闘してくれました。この時期になると苗と雑草が同じくらいの草丈になり、まさに勝負の分かれ目です。額には大粒の汗、お尻から太ももは筋肉痛。彼らにとっては地獄の実習だったのではないのでしょうか。その代わり飯もお酒もたらふく召し上がっていただきました。感謝・感激。



■ 田んぼの中ではいろんなことが・・・

① トンボの一斉羽化(バージンフライ)が始まった



6月14日、早朝。田んぼではトンボの一斉羽化が始まっていました。昨夜から一生懸命苗をよじ登ったヤゴたちが、未明には背中が割れだし、朝日が昇る頃、羽化していきます。よく見ると田んぼの到る所で同じ光景が見られます。後日田んぼの短辺の畦沿いに苗3列分、ヤゴの抜け殻を回収したところ、約100匹程度あったので、単純

計算するとこの田んぼでは約3,000匹ものトンボが羽化したこととなります。

羽化したてのトンボは羽が透明で朝日に照らされるとキラキラと光ります。そして羽が伸びきって乾いた瞬間、そと宙を舞うのです。なぜ、一斉に羽化するのか、そのシステムは解りませんが神秘的な光景です。



② 泥負い虫の無銭飲食



今年も泥負い虫が無農薬田んぼでは大量発生しています。5月下旬になると成虫が山からやってきて、緑の苗をかじり卵を産みます。やがて卵がかえり、幼虫たちがさらに緑の苗が白く見えるほどたらふく食べます。彼らは体の乾燥から身を守るため、自分の糞を体中に塗りたくって真っ黒になります。お腹が一杯になると真っ白なサナギとなり、6月末には成虫になってまた、山へと

帰っていくのです。彼らにとって無農薬田んぼは安心して食事がとれる「五つ星レストラン」です。その証拠に殺虫剤が入っている通常の田んぼにはほとんど食害が見られません。今のところ有効な対処法は無く、只々見守るのみです。「泥負い虫の皆さん、無銭飲食はやめてください。一刻も早く、この店から出て行ってください。そして二度と来ないでください。この田んぼのお米を食べてくださるお客様は他にいますから！」・・・心の叫びです。

■ 幼鳥トキ 8羽全てが巣立ち！



36年ぶりに野生で孵化した3組のつがいから生まれたトキ、8羽全てが巣立ってきました。島内には現在、今年生まれて雌雄判別ができないヒナと幼鳥を除き、57羽のトキが生息しています(うち雄35羽、雌22羽)。田んぼ仕事の合間にも頻繁に姿を見せてくれるようになりました(なかなか良い写真は撮れませんが)。うれしい反面、気がかりなのは増えていくトキたちのお腹を満腹にするだけの餌があるのかどうかです。トキの餌場は田んぼです。田んぼにたくさんの生きものたちがいなければ、トキも生きてはいけません。私たちの「生きものを育む農法」はさらに拡大していかなければなりません。そのためには・・・そうです。皆さんがもっと佐渡のお米を食べることです。心から願います。

そこで・・・平成24年産「朱鷺と暮らす郷コシヒカリ」年間予約会員を募集

いたします。同封の申込書に必要事項を記入のうえ、ご返信願います。価格は23年産同様、玄米30kg1袋 10,000円(送料込み)です。知人・友人の方々にご紹介いただければなお、幸いです。「佐渡に来ればいつでもトキに会える」そんな風景を一日でも早く実現するために、皆様の応援を宜しく願います。